

91	IgG4関連疾患の臓器横断的病態解明	金子 祐子
----	--------------------	-------

【目的】 IgG4 関連疾患 (IgG4-related disease : IgG4-RD) は、全身諸臓器に腫大や肥厚を来たし機能障害をもたらす慢性炎症性疾患である。病変は複数臓器に及ぶため臓器横断的なアプローチにより各臨床病型の違いを明らかにすることと、その病態に基づいた治療エビデンスの構築が望まれる。本研究では、組織障害と炎症に関与することで知られる CX3CR1 陽性細胞障害性 T 細胞に着目し、臓器横断的 IgG4-RD 患者コホートと臨床検体を用いて臨床病型別の病態の理解を深めることを目的とする。

【方法】 54 人の IgG4-RD 患者、疾患コントロールとして 57 人の pSS 患者、40 人の健常者から検体提供を受けた。末梢血中の CD4 T 細胞または CD8 T 細胞における CX3CR1 陽性細胞の比率を、フローサイトメトリーを用いて解析した。臨床データとの関連解析における 2 群間の比較は Mann Whitney 検定 (非ペアサンプル) または Wilcoxon matched-pairs signed rank 検定 (ペアサンプル)、3 群間の比較は、Kruskal-Wallis 検定による分散分析を行った後、Dunn's multiple comparisons による多重検定を行った。相関分析は Spearman の r を用いた。非再燃生存曲線は Kaplan-Meier 分析を用いて作成し、log-rank 検定によって比較した。

【結果】 CX3CR1 陽性 CD4 および CX3CR1 陽性 CD8 T 細胞の比率は、健常人と比較して IgG4-RD と pSS で有意に増加していた。また、増加した CX3CR1 陽性 CD4 T 細胞の比率は CX3CR1 陽性 CD8 T 細胞の比率と正の相関を示した。臨床病型別解析では、後腹膜線維症と大動脈周囲炎を合併した IgG4-RD 患者は、涙腺唾液腺炎合併患者と比較して CX3CR1 陽性 CD4 および CX3CR1 陽性 CD8 T 細胞の比率が有意に高かった。また、疾患活動性と CX3CR1 陽性 CD4 および CX3CR1 陽性 CD8 T 細胞の比率が正に相関していた。さらに、グルココルチコイド治療による臨床的改善とともに CX3CR1 陽性 CD4 および CX3CR1 陽性 CD8 T 細胞の比率が減少し、治療前の CX3CR1 陽性 CD4 および CX3CR1 陽性 CD8 T 細胞の比率が高い IgG4-RD 患者では臨床経過中の非再燃生存率が高かった。

IgG4-RD の臓器横断的アプローチによる臨床病型別病態解明

